

映画上映会 

うらやす

ドキュメンタリーテーク

Vol.57

2025年

2月24日  月祝

浦安市文化会館 小ホール

【料金】1作品ごと1回券999円、サポーター799円、高校生以下500円

【主催】浦安ドキュメンタリーオフィス



©Rain field Production

冤罪を背負った47年7か月を描く  
「拳と祈り — 袴田巖の生涯 —」

「いまも続くフクシマの傷に寄り添う  
生きて、生きて、生きて、生きて。」

決して忘れてはいけぬ2本の映画をいま上映！

©Nihon Denpa News Co.,LTD.

10:00 上映開始 (9:40 開場)

※上映終了後、島田陽磨監督によるトークイベントを予定



©Nihon Denpa News Co.,LTD.

## 『生きて、生きて、生きろ。』

島田陽磨監督/2024年/日本/113分

震災と原発事故から13年、福島で、こころの病が多発していた  
喪失と絶望の中で生きる人々とともに生きる医療従事者たちの記録

震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故による避難生活中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。蟻塚医師は、かつて沖縄で、沖縄戦の遅発性PTSDを診ていた経験から、福島でも今後、長期にわたり、PTSDが発症すると考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだ、という希望を持った時に人は泣ける」と話す蟻塚さん。米倉さんは、息子を失った男性にあることを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。監督は「ちょっと北朝鮮まで行ってくるけん。」の島田陽磨。

13:15 上映開始 (12:55 開場)

※上映終了後、笠井千晶監督によるトークイベントを予定



©Rain field Production

## 『<sup>けん</sup>拳と祈り —袴田巖の生涯—』

笠井千晶監督/2024年/日本/159分

釈放当日——。世紀の瞬間の舞台裏を撮った、1台のカメラがあった。

2014年3月、東京拘置所。死刑囚の袴田巖さんが、突如釈放された。1966年6月に静岡県で味噌会社専務一家4人が殺害され、放火された事件の犯人とされ、47年7ヶ月もの獄中生活を送ってきた。明日突然、死刑が執行されるかもしれない。そんな恐怖の日々をくぐり抜け、30歳の青年は78歳になっていた。着の身着のままワゴン車で東京拘置所を後にした時、本作監督の笠井千晶が助手席でまわすカメラが捉えたのは、まるで夢から覚めたような袴田さんの表情だった。死刑囚が再審開始決定と同時に釈放されるという、驚くべき事態を当日のニュースは劇的に報道した。その夜、半世紀近く引き裂かれていた姉と弟が枕を並べた。拘置所の壁に隔てられ、想像を絶する苦難を生き抜いたものの、奪われた時間は戻らない。なぜこれほどの試練が与えられなければならなかったのか。言葉にしがたい悲しみや喪失を2人の寝息が静かに包み込む。さらに続くことになる司法との闘いを覚悟しながら、カメラは2人の生活を記録し、対話を重ね、袴田さんの心の内面深くに迫っていく。

釈放から10年の節目に完成する本作は、死刑囚のまま生きること強いられた、袴田巖さんの闘いの軌跡だ。22年間にわたって袴田さんを追い続けてきた笠井監督は現在もカメラを回し続けている。

### 開催概要

【日程】

2025年2月24日 月祝

【会場】

浦安市文化会館 小ホール

(浦安市猫実1丁目1-2/浦安市役所隣)

\*専用駐車場はございませんので、できるだけ公共交通機関をご利用ください

【料金】※各作品ごと

1回券 999円、サポーター 799円、高校生以下 500円

### タイムスケジュール

09:40 開場

10:00 『生きて、生きて、生きろ。』(113分)

※上映終了後、島田陽磨監督によるトークイベントを予定

13:15 『<sup>けん</sup>拳と祈り —袴田巖の生涯—』(159分)

※上映終了後、笠井千晶監督によるトークイベントを予定

16:30 頃 終了予定

\*入替制となります

【お問い合わせ】主催：浦安ドキュメンタリーオフィス メール：[info@urayasu-doc.com](mailto:info@urayasu-doc.com) 電話：070-5454-1980

公式HP：<https://urayasu-doc.com/>

[facebook.com/urayasadoc/](https://www.facebook.com/urayasadoc/)

[twitter.com/UDFF2011](https://twitter.com/UDFF2011)

事前予約優先!  
(2/23まで)



予約フォーム